

高松キワニス「社会公益賞」

読書ボランティア団体に

社会奉仕団体「高松キワニスクラブ」(太田賀久会長)は7日、献身的な奉仕



キワニス社会公益賞の贈呈式で表彰状を受け取る「高松 本とおはなしの部屋」代表の福田弘美さん(中央)ら。高松市

活動をした個人・団体を表彰する「社会公益賞」の贈呈式を、高松市内のホテルで開いた。今年はずいぶんへの本の読み聞かせ活動などに取り組む高松市のボランティア団体「高松 本とおはなしの部屋」が受賞した。

同賞は、地道に公益活動に携わる人たちをたたえようと創設され、今年で36回目。香川県内の社会福祉協議会などから推薦された個人や団体を対象に選考した。

「高松 本とおはなしの部屋」は高松市中央図書館を拠点に、生後9カ月から小学校低学年までの乳児や児童とその保護者を対象に、本の読み聞かせやぬいぐるみを使った手遊びなどを定期的に実施。また、布

や毛糸などが素材の半立体的な絵や点字を用いた「さわる絵本」の制作などに取り組んでいる。

贈呈式で、同団体代表の福田弘美さん(54)は「子供

やお母さんたちの笑顔を支えに活動を続けています。これからも皆さんの期待に応えられるよう頑張りたい」と語った。

高松の読書団体に社会公益賞を贈る

キワニスクラブ

民間社会奉仕団体の高松キワニスクラブ(太田賀久会長)は7日、「第36回キ

太田会長から賞状を受け取る福田代表(左から2人目)高松市内



ワニス社会公益賞」の贈呈式を高松市内で開き、読書ボランティア団体「高松 本とおはなしの部屋」(高松市)を表彰した。

同賞は、地域で公益活動に携わる人をたたえるのが目的。市町教委などから推薦があった個人・団体を対象に選考している。

本とおはなしの部屋は2001年、同市図書館が公募した図書館ボランティアのメンバーを母体に構成。図書館や保育所などでの本の読み聞かせに加え、盲学校での対面朗読、視覚障害者向けに文字を点字にした「さわる絵本」の作成などに取り組んでいる。

贈呈式では、福田弘美代表と平崎邦江副代表が太田会長から賞状などを受け取った。福田代表は「子どもやお母さんの笑顔を支えに頑張ってきた。子どもと本をつなぐ活動を続けていきたい」と誓っていた。